

# カンボジア Overseas Community Project (OCP)

## 地域での食料寄付活動 3/20-26

以下、もうひとり地域での寄付活動の経験について書いてくれました。チーム最年長の「しょう」こと猪野君です。

今日のブログを担当するのはチーム唯一の4年生、建築学科の猪野将です。僕のOCPでの目標は、カンボジアの人々がどのように生活していて、何を幸せに感じ、これからどのような支援が自分にできるかについて考えることです。

ハードなパッキング作業を終えて、いよいよ支援を必要とする人々に汗と思いのこもった袋を届けに行きます。袋にはお米、砂糖、塩、ニンニク、醤油、油、麺を詰めています。全部でおよそ1000袋あるこの袋を5つの場所に持っていきます。支援の対象者は、レベル3と言われる生活困窮家庭に送られます。これらの支援はシンガポールの学生が集金を行い買い揃えています。

生活困窮度合いの違う人に支援が誤っていかないように、支援を受ける人達は政府の印が押されたチケットをそれぞれ持っており、列になって受け取るのを待っています。ほとんどの家庭が一人の大人か、子供連れで来ていましたが、中には肌に明らかに病気のある人や、子供だけできている人、パンツを履いていない子供などもいました。確かなことはわかりませんが、医療を受けるお金がない人、両親がいない人など、レベル3の家庭の中にもさらに生活に困っている家庭はあるのだと思います。



ドネーションを行う場所について考えたことがあるので書きたいと思います。お米を干している場所、寺の境内、小学校、簡易的な宗教建築などで人々に集まってもらい、そこで寄付活動を行いました。人々を集める時、そこは全員が場所を認知しており、集まることのできる場所が求められます。お米や宗教が人々にとってとても大切な存在になっていることがとても良くわかりました。

人々の生活にとってもう一つ大切なものがあります。それは水です。カンボジアの街を歩くと至る所にため池や水を貯めるための壺が置いてあり、乾季のためにどう水を保存するかがとても考えられています。カンボジアでは水はボトルに入った水しか飲むことができません。僕は水こそドネーションするべきではないかと考えましたが、水はすぐ消費してしまい効果的にならないことから行っていないようです。今後の水のドネーションについては、大きな飲む水のタンクを村でシェアできるようにすることが目標のようです。

様々な人と一対一で袋とチケットを交換し思ったことがあります。自分たちがわざわざカンボジアまで来て寄付活動を行っていたのは、単に必要な物資を寄付するためではなかったのだということです。寄付活動だけなら日本からでもできます。現地で現地民と対面し、笑顔や元気を与えることが何よりも大切なことだと思いました。



寄付活動は我々OCPの活動の年に1度しか行われておらず、さらにOCPで寄付活動を行えている範囲はホームステイから車で30分圏内のとても小さい範囲です。このブログを読まれた方へ少しでも募金に協力していただけたらと思います。

### 追伸

年長であることをチームに全く気にされなくなかったのが、チームメイトみんなと仲良く慣れて本当に良かったです。長くきつい活動も、楽しくてあっという間に終わってしまったこと、シンガポールの学生含めこのチームでよかったと思えたこと全てに本当に感謝しています。